

しんゆり：アター

劇団わが町

# 劇団員募集

私たちと一緒に、お芝居を作ってみませんか？  
お芝居なんて、自分とは関係ないと思っっているあなた。  
お芝居は面白そうだけど、いまさら恥をかきたくないというあなた。まだ通昔取った杵柄が、まだ通用するかどうか知りたいあなた。  
自分の可能性に賭けてみたいあなた。  
私たちと一緒に、歩いてみませんか？  
お芝居は、自分を変え、周りを変え、思いを伝えます。  
だから……

劇団わが町 芸術監督 ぶじたあさや

新百合ヶ丘発・市民劇団＜劇団わが町＞の旗揚げ作品「わが町しんゆり」の再演、さらには新作公演の上演をみすえ、いずれかに参加する劇団員オーディションを開催。舞台がお好きな方や未経験者も大歓迎！一緒に舞台を創りませんか？

## オーディションについて

- 日程（予定） 2014年7月6日（日）午後 ※場所は新百合ヶ丘近辺を予定。
- 応募条件 新百合ヶ丘での稽古に通える方。  
「わが町しんゆり」再演もしくは新作公演、公演にあたっての稽古に参加できる方。
- オーディション内容 体を動かしたり、セリフを読んでもります。

## 公演スケジュール

- 稽古（予定） 2014年9月下旬開始。基本的に週末1日、公演が近づくにつれ週3～5日。  
基本時間は週末は午後から、平日は夕方から。出欠は応相談。
- 「わが町しんゆり」再演本番 2014年11月1日（土）@川崎市麻生市民館ホール  
2015年1月11日（日）@川崎市多摩市民館ホール
- 新作公演本番（予定） 2015年3月13日（金）～15日（日）@川崎市アートセンターアルテリオ小劇場

## その他

- ① 劇団わが町は単発の企画ではなく、長期的に活動しております。ワークショップや稽古を重ね、上記の公演さらにはその先へと続きます。ご理解の上で応募下さい。
- ② この劇団員募集は出演者オーディションではありません。出演、スタッフワークなどあらゆる方法で一緒に舞台創りに参加することになります。
- ③ 応募ご希望の方は裏面にご記入の上、6月26日（木）必着でご応募下さい。

## お問合せ

川崎市アートセンター 044-955-0107（9:30～19:30） <http://kawasaki-ac.jp/th/>

## オーディション応募用紙

応募ご希望の方は、下記の太枠内に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにてご応募下さい。

- 応募先 川崎市アートセンター劇団わが町オーディション係  
〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1 / FAX 044-959-2200

**応募締切 2014年6月26日(木) 必着**

ふりがな 氏名		男 ・ 女	年齢		職業	
住所	〒					
TEL		FAX				
携帯		メール アドレス				
応募 動機						
舞台 経験	※学校や習い事の発表会など何でもかまいません。ない場合は「特になし」とご記入下さい。					

- 応募締切後、オーディション当日のご案内の資料をお送りします。締切後1週間経っても連絡がない場合は、川崎市アートセンターへお問合せ下さい。
- 劇団わが町への参加費は無料です。



舞台写真：関口淳吉

## しんゆりシアター

2012年4月よりアルテリオ小劇場が主催する公演を「しんゆりシアター」と名づけました。「しんゆりシアター」はリージョナルシアター＝地域劇場を目指します。リージョナルシアターとは広い意味での公共の劇場が、プロの俳優・演出スタッフを集め、演劇やミュージカルの創造発信を行うことを言います。また、劇場の活動を評価するのは地域住民の方々です。この仕組みを理想とし、私たちは川崎市新百合ヶ丘地域の創造発信の拠点となる地域劇場を目指します。

<劇団わが町の公演一覧>

- 2013年3月「わが町しんゆり」試演会  
(原作 ソートン・ワイルダー / 翻訳 鳴海四郎 / 翻案・作・構成・演出 ふじたあさや)
- 2013年6月「わが町しんゆり」本公演
- 2014年3月「夢みる人」  
(作・構成・演出 ふじたあさや / 作 劇団わが町文芸部)

## 劇団わが町

<http://our-town.jp/>

2012年6月に生まれた新しいゆるやかな劇団。劇団員は川崎市民を中心とした総勢約40名。年齢制限はなく、現在6～7歳までのメンバーが所属しています。しんゆりシアターのラインナップの一翼を担い、長期的に様々な創造活動を行なっています。劇団を率いるのはふじたあさや氏。1934年、東京生まれの劇作家・演出家。麻生区在住。早大演劇科在学中に『富士山麓〈福田善之合作〉』で劇作家としてのスタートを切る。放送作家を経て、現代劇、児童青少年演劇、ミュージカル、オペラなど様々な分野で劇作家・演出家として活躍。韓国・中国・ロシアなどともコラボレーション多数。主な作品に『日本の教育1960』『さんしょう太夫(斎田戯曲賞受賞)』『ヒロシマについての涙について』『しのだづま考(芸術祭賞受賞)』『ベッカニコおに』『サンダカン八番娼館』『臨界幻想2011』など。川崎市文化賞受賞。元日本演出者協会理事長。現在アシタジ〈世界児童青少年演劇協会〉世界理事。NPO法人KAWASAKIアーツ理事長。劇団わが町芸術監督。